

NPO法人チームふくしま

ひまわり新聞

20

<特集>

日本初!アパートの一室にある お互いさま倉庫
「コミュニティフリッジひまわり」をスタート

- P5 第10回ひまわり甲子園全国大会 2023
- P7 「ひまわり結婚式」を3年ぶりに開催
震災から11年 プロジェクト関係者ヘインタビュー
- P8 日産スマイルサポート基金 ~次世代への体験活動~
「ひまわり防災検定」が事例集に掲載されました
- P9 「ハグの献血キャンペーン」を実施
- P10 オンラインショップからのお知らせ
- P11 ドバイで広がるひまわりの輪
災害支援報告
- P12 2022年 ひまわりの種 福島県内寄贈先
福祉作業所「菊の里」様へひまわり油を寄贈
- P13 福島ひまわり里親プロジェクトの記録
- P15 収穫したひまわりの種について



ドバイの砂漠にて
世界にまで広がる絵本「ぼくのひまわりおじさん」
2022年12月13日



日本初！アパートの一室にある お互いさま倉庫 「コミュニティフリッジひまわり」をスタート

2022年2月3日、福島市のアパートの一室に「コミュニティフリッジひまわり」を開設しました。

（現在、株式会社いちい様のご協力の下、「かすみ荘（福島市山下町）」の一部屋を使用させて頂いています）

コミュニティフリッジ（公共冷蔵庫）とは、食料品や日用品の支援を必要としている方が、人目を気にすることなく、支援を受けられる仕組み。無人の冷蔵庫や棚から、利用者が自由に食料・日用品を持つていくことができます。元々は食品ロス削減や困窮者支援のため、欧米で広がった取り組みです。

経済の影響による仕事の事情、離婚や介護などの家庭の事情など、様々な事情により、生活に困難を抱える方が増えてきている中、さらに新型コロナウイルスの影響で困難を抱える状況になつた方が全世界で増えています。また、子どもが生まれ育つた環境等に左右されず、健やかに育成される環境を整え

るためには、親だけでなく地域で子どもを育てていく気持ち、環境や仕組みが必要です。

こうしたときこそ「困ったときはお互いさま」の気持ちで助け合いたい。全ての支援は難しいけれども「お互いさま」の気持ちで食料品や日用品を無料で提供することができれば、生活への苦労を少なくすることができるのではないかと思い、この取り組みをスタートすることにしました。

私たちは、東日本大震災以降、「福島ひまわり里親プロジェクト」を通じ、全国・世界の方々から多くのご支援を頂き、「困ったときはお互いさま」の精神を教えて頂きました。昨今の状況を前に、今度は私たちから「お互いさま」精神による助け合いの輪を広げたいと考えています。今まであたたかな支援をいただいてきた私たちから、今度は全國・世界の方々への恩返し（恩送り）していくという意味も込めて、取り組んでいます。



アパート内は、食料品から日用品まで様々なものが並んでいます。

For You, For Next.

「コミュニティフリッジひまわり」のしくみ



寄付者の方々は、登録後、事務所に直接支援品を持ち込むか、インターネット経由での支援も可。寄付者の紹介とお礼等はプロジェクトのFacebookにて発信しています。



利用者は利用登録することで、入り口の電子ロックをスマートフォンで操作して開け閉めします。駐車場とも直結しているので、人目を気にすることなく、ご自身の都合で利用が可能です。(2023年1月時点ですべて約90世帯が登録)



助け合いの精神で提供をくださる個人、企業・商店などからお預かりした食料品・日用品を、アパート内の冷蔵庫や冷凍庫にお渡しします。



室内には支援品のほか、就職など各種相談の窓口や、メッセージボードを設置しています。メッセージボードの付箋には、利用者様からの感謝メッセージが書かれています。

＼利用者の皆さんからのメッセージ／

♡とてもとても大変な時期でやりくりにとても困って元気を失っていましたが、今日、こちらに来ることが出来て、たくさんの方々からのお品に感激しております。大切に大切にいただきます。ありがとうございます!!

♡食材をいただくことで、こんなにも不安が解消すると気づかせていただきました。みなさんの気持ちがとても嬉しいです!いつもありがとうございます。

♡コミュニティフリッジにくる度に、感謝の気持ちでいっぱいになり、人の温かさを身に沁みます。本当にありがとうございます。恩返しできるようがんばります。

For You, For Japan.

For You, For Next.

「お互いさまの街ふくしま」く 理事長 半田真仁

コミュニケーションフリッジの始まり

「コミュニケーションフリッジひまわり」は、元々、昨年亡くなつた副理事の吉成がニューヨークの取り組みをモデルに、「みんなの食糧庫」をやっていたことがきっかけでした。

生前、吉成はずっと「福島が『お互いさまの街ふくしま』と言われるようになりたい」と言つて、他にも、お互いさまチケット、お互いさまアート、障がい者雇用（ハンディキャップワーカー）などを通じて「お互いさま精神」を広めようと取り組んでいました。

彼の想いと、その取り組みは、チームふくしまの理念である“For you For Japan”、“For you For Next”に通ずるものがあります。お互いさまを広めることは、今ここにいる人ひと、次世代、日本、そして世界のためになります。そこで、コミュニケーションフリッジを実



施することになりました。

ただ、コミュニケーションフリッジは、吉成が行つていた「みんなの食糧庫」とは、システムがかなり異なります。様々な形が並んであることで、共感した方が参考にしてマネしやすくなると考えたからです。私たちは、コミュニケーションフリッジをやることが目的なのでは

なく、お互いさま精神に基づいた取り組みを、もつと広げるための1つのステップとして始めるに至つたわけです。

目指すのはソーシャルデザイン

福島ひまわり里親プロジェクトも、コミュニケーションフリッジも、人の可能性を花開かせる一つのきっかけであるといふ思つています。

例えば、コミュニケーションフリッジの利用者は、今は支援される側ですが、それは自身の可能性を拓くきっかけにまだ出会えていないだけ。そのきっかけづくりでは就職など、各種相談窓口の情報も提供しています。まずは、「食」を充実させて、それから「職」に出会い、そして最後には自分の人生を彩つてほしいのです。

私たちの取り組みが目指すのは

お互いさま精神の啓発であり、その先にソーシャルデザイン（社会の在り方を考え変えていく）を目指します。日本的な価値観である、「お互いさま」「思いやり」そして「和の心」を基に、社会を変えていきたいと思つています。

ビジネスとソーシャルの両立

福島ひまわり里親プロジェクトをはじめ、これまでの取り組みの全ては、お互いさま精神が土台にあります。このような取り組みの周りには、思いやりのある素晴らしい人たちが集まります。そうすると、プロジェクトやコミュニケーションフリッジなど、我々の取り組みへの参加の循環も生まれるといふ思つています。

例えば、コミュニケーションフリッジの利用者は、今は支援される側ですが、それは自身の可能性を拓くきっかけにまだ出会えていないだけ。そのきっかけづくりでは就職など、各種相談窓口の情報も提供しています。まずは、「食」を充実させて、それから「職」に出会い、そして最後には自分の人生を彩つてほしいのです。

お互いさまの街

全国に広がれば、その取り組み同士で化学変化が起こるかもしれませんし、そうなればいいと思っています。ソーシャルな取り組みは一人ではできないので、皆でやればいいのです。



最終的には、ワンガリ・マータイさんが世界に広めた「モッタインاي」のように、「お互いさま」が、世界の共通言語になれば。そして、その先に世

For You, For Japan.

す。世界平和があることを願っています。その第一歩がこのコミュニティフリッジで

今までには、福島を「同情の街」から「尊敬の街へしたい」と活動してきました。今は、「お互いさまの街」を目指しています。そしてその先に、「お互いさまの日本」を実現したいです。この取り組みが広がれば、様々な方が福島を見に訪れるでしょう。そのためにも、まずは福島で、お互いさま精神をしつかり広げておくことが、今の課題であると認識しています。

コミニニティフリツジに募金箱を置いているのですが、ある日見ると50円が入っていました。利用者の方からのご寄付でした。重い想いのある50円。貨幣価値では計れない重みがありました。まさに「お互いさま」です。コミュニケーションフリツジは、利用者も支援者も、思いやりあふれる、お互いさま精神の場となっています。

利用者の方々には、人生の次のステージに進むきっかけづくりの場として、コミュニティファシリッジひまわりを利用してもらえたと 思います。支援者の方々には、本当に感謝しかありません。今まで我々がやってきたことの積み重ねが、本当に大きな力



おわりに—幸せの秘訣

自分の幸せは自分の周りが幸せであること、そして幸せの秘訣とは、自分と他者の区別をつけずに、慈しみの心を向けることだと考えています。人は、自分が誰かの幸せの源であると実感したときに、幸せを感じます。身近な人の幸せは、自身の幸せになります。それゆえ、何かをして差し上げる方も幸せになるのです。これは、福島ひまわり里親プロジェクト、コミュニティフリッジひまわりなど、我々の取り組み全てに共通することです。

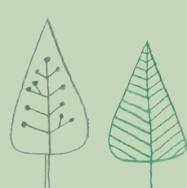
コミュニケーションフリッジを始めるとなつた時、一番に応援に駆けつけて頂き、現在に至るまで支援を続けてくださつている方々がいます。それは「特定非営利活動法人和」の皆さん。今まで、我々が応援してきた方々に、今度は真っ先に応援して頂いています。本当に感謝しています。

一部をご紹介します。取材いただきありがとうございます。

2022.9.2
福島民報

2022.12.28
福島民友

2022.11.17
福島民報



2022.10.3
朝日新聞

リアル&オンラインのハイブリッドで開催!

第10回ひまわり甲子園全国大会 2023

「福島ひまわり里親プロジェクト」に参加・応援する日本中の子どもたち、大人たちが福島に集結! それぞれの暮らす場所で震災があったから“こそ”生まれた物語を発表します。また、ひまわり甲子園の中で、2021年の冬に始まったシリア難民キャンプへの支援プロジェクトについても報告をさせていただきます。東日本大震災から12年を迎える中、3年ぶりに福島の会場とオンラインのハイブリット開催を予定している今回の全国大会。ぜひ、可能な方は現地に足を運んでいただき、リアルな今の福島を感じただけたら嬉しいです。

2023年3月11日(土) 14:30~17:30

富岡町文化交流センター学びの森

(福島県双葉郡富岡町本岡王塚622-1)



▶参加費 大人:5,555円(会場参加・ライブ配信視聴ともに同額)

子ども:無料(大学生まで)

【申し込み方法】①オンライン ②FAX ③メールまたは電話

※詳細はチラシまたはWEBにてご確認ください



想いの種(たすき)を次の世代に
～未来に向かつて咲くひまわり～

福島の復興を願い、ひまわりの花を咲かせる活動「福島ひまわり里親プロジェクト」は、たくさんの方のご理解と、心温まるご支援、ご協力を頂きながら12年を迎える事が出来ました。

プロジェクトに参加してくださる里親さん、応援してくれるサポートーー皆さんをはじめ、関わって頂いた沢山の方に感謝申し上げます。本当にありがとうございます。 東日本大震災から12年が経過した今も、福島ひまわり里親プロジェクトを通して福島を応援してくださる人がいることは、本当に有り難いことだと感じております。 私たちが続けたいと願つても、参加してくれる里親さんがいなければ続けることは出来ません。1人の行動、1粒の種、その積み重ねが「12年」という長い時間を紡いきました。

福島を応援する想い、誰かのために行動する優しさや思いやりを、ひまわりを通じて未来へつなげていく事が、今まで参加してくれた方への恩返しと、これから未来を生きていく人たちへのささやかな贈り物と

なってくれると思います。

福島ひまわり里親プロジェクトを、次世代を生きる子どもたちに伝え、さらに未来へ繋がるよう祈りを込めて「ひまわり甲子園全国大会」を開催いたします。

ひまわりが花を咲かせるまで時間がかかるように、今すぐに成果を得ることは難しいかもしれません。種を蒔き水や栄養を与えことで少しづつ成長し、やがて芽が出て花を咲かせます。 来年、再来年といった未来に目を向けたとき、今出来ることは小さなことのように感じるかもしれません、必ず未来に繋がっていきます。同じ想いを共有しながら、一緒にひまわりの咲く未来を創っていきましょう。あなたの行動が種となり、素敵な花を咲かせることを願っています。

ひまわり甲子園全国大会2023が、明るい未来を創るきっかけになれば幸いです。

第10回ひまわり甲子園全国大会2023
実行委員長 大和田勲



Speakers of the Day!

高森町立高森南小学校(長野県)

高森南小学校6年3組が総合的な学習の時間で取り組んでいる「福島の想いをつなぐひまわりプロジェクト」本プロジェクトは、福島から届いたひまわりの種を使って巨大なひまり迷路を作り、ひまわりを通して「東北のみなさんを勇気づけたい」「東日本大震災のことを町民のみなさんにもっと知ってもらいたい」と始まった子ども発信の取り組みです。200mに約7万本のひまわりは圧巻。老若男女に楽しんでもらえるようにスタンプラリーも開催しました。今日は子どもたちの福島への熱い想いを発表します！



学校法人菊武学園菊華高等学校 保育・福祉コース(愛知県)



2021年にわたしたちの先輩方が理事長先生よりいただいた「ふくひまの種」を受けとったことがひまわり里親プロジェクトとの出会いでした。ひまわりを咲かせるために、花壇を「から作り、協力して大輪の花を咲かせることができます。そして、種をお世話になっている福祉施設に届け、沢山の開花報告を頂きました。また、コースの手作り絵本の題材となり、先輩たちの卒業後も私たちが種を繋げています。

今年は、福島にてひまわりセレモニーを開催し、収穫したひまわりの種、プランターをはじめ、手作り花壇プレート等多くの感謝を福島へ届けることができました。



本プロジェクトは、福島から届いたひまわりの種を使って巨大なひまり迷路を作り、ひまわりを通して「東北のみなさんを勇気づけたい」「東日本大震災のことを町民のみなさんにもっと知ってもらいたい」と始まった子ども発信の取り組みです。200mに約7万本のひまわりは圧巻。老若男女に楽しんでもらえるようにスタンプラリーも開催しました。今日は子どもたちの福島への熱い想いを発表します！

愛知学泉大学 ライフスタイル学科 (愛知県)

私たちの活動は、メンバーの中に系列校である安城学園高等学校の出身者がいる事から

始まりました。安城学園では2017年から「福島ひまわり里親プロジェクト」に参加しています。高校時代の経験から、この活動をより多くの人に広げたい力になりたい、福島に恩返しをしたいという思いが生まれました。大学で学んだ知識と技術を活かして私たちにしかできないカタチで笑顔と元気を届けたいと考え、育てたひまわりで染色した「ひまわりドレス」を製作しました。私たちが活動をする中で最も大切にしているのは「たくさんの繋がり」です。このプロジェクトを通して私たちにしかできない福島との繋がりを大切にしながら、たくさんの笑顔と元気をつなげることができます。この活動を通じて、私たちにしかできない福島への想いを形にしました。その「絆」を形にすべく、「絆・カルタ」を制作しました。地域の方々と取り組んだ「竜南ひまわりプロジェクト」について発表いたします。



福島学院大学短期大学部 保育学科 山田沙也加(福島県)

長野県長野市出身で、1年間和裁の勉強で石川県に行き、その後ご縁があり福島市に移住しました。現在は、保育を学ぶ為に福島学院大学短期大学部保育学科に所属し、今年春に福島市の保育園に就職予定です。



2012年に家族で福島ひまわり里親プロジェクトに参加し、同年に父が理事長の半田さんと出会いました。半田さんのお話を伺い、感動して2013年から父が長野県で活動を始めました。その後、2年前に父のお陰で半田さんとのご縁を頂き、様々な方との出会いと体験がありました。その後、2年前に父のお陰で新卒でチームふくしまへ就職をして丸7年が経とうとしています。この7年間、仕事を通じて見えて来たもの

を発表致します。この7年間、仕事を通じて様々なことを学び、気づきをいただき、人親プロジェクトと出会ったことで、活動の背景や始めた思いに触れました。この貴重な体験を後世に残すためにも、研究を通して見えて来たもの



<活動報告> ふくしまシリアプロジェクト報告



2021年冬より、シリア難民キャンプへの支援として、絵本「ぼくのひまわりおじさん」や防寒着を子どもたちに送る支援を行わせていただいている。昨年12月には、アラブ首長国連邦と日本との国交樹立50周年記念イベント内で、絵本やひまわりの種を配布するとともに、福島ひまわり里親プロジェクトや絵本についての発信もしました。今回、これまで行ってきた支援活動やドバイでのイベントに参加して感じたこと、学んだことなどを、立ち上げから関わってきた筑波大学3年 松井新さんより報告いたします。

NPO法人チームふくしま 理事・事務局長 清野巽

2014年に参加した

ボランティアで初めて

「福島ひまわり里親プロ



ジェクト」を知って以降、

大学卒業まで定期的に

ボランティアで関わり、

新卒でチームふくしまへ就職をして丸7年が

経とうとしています。この7年間、仕事を通じて成長させていただきました。また、ボラ

ンティアで関わっていた学生の時には見えな

かった「福島ひまわり里親プロジェクト」の魅力

にも気づかされました。プロジェクトに関わる

方々への感謝とともに、私自身の変化と気づきを発表させていただきます。

「ひまわり結婚式」を3年ぶりに開催



2022年8月15日(月)、田村市大越町牧野地区で「ひまわり結婚式」を開催しました。新型コロナウィルス感染症拡大の影響で開催を見送っていたため、3年ぶり8回目。

牧野地区に咲いたひまわりは、全国の里親さんから届いたひまわりの種や、2021年に「東北復興宇宙ミッション2021」(主催:一般財団法人ワンアース)を通じて宇宙へ打ち上げられ、帰還した種から育ったひまわりなど約3万本。新郎新婦も参加して5月に種をまき、6月に苗を植えも行いました。今回も牧野の皆さまのご協力で、アットホームな雰囲気の中、4組のカップルが挙式を挙げられました。末永くお幸せに!

当日は、愛知学泉大学の学生さんが「ひまわり染め」(ひまわりの花べんから染液を抽出して染め上げる)で染色した生地を使い製作したミニドレスや、活動を紹介するポスターなども会場に展示。こちらのドレスは、次回のひまわり結婚式で挙式されるカップルが着る予定です。



震災から11年 プロジェクト関係者へインタビュー

2011年3月11日の東日本大震災、福島第一原子力発電所の事故をきっかけに、私たちは「福島ひまわり里親プロジェクト」を立ち上げ、これまで活動してきました。今回、プロジェクトに関わっている方やご縁をいただいた方、計24名に、当時のリアルな経験や、現在の想いなどについて、インタビューを行いました。

震災当時の経験や、プロジェクト、チームふくしまに対する想いは、個々の状況により様々です。しかし、インタビューはどれも過去に想いを馳せつつも、明るい未来を想像させるような内容となっています。「あの出来事があったから、今がある」という前向きなエネルギーは、コロナ禍をはじめとする昨今の状況の中で希望を感じさせます。プロジェクトやチームふくしまと長くお付き合い頂いている方々も、知り合ったばかりの方々も、改めて、震災の意味やプロジェクトの意義について、想い巡らせてみてはいかがでしょうか。インタビューは、「福島ひまわり里親プロジェクト」公式HP、もしくは下記のQRコードからご覧いただけます。

(この事業は、令和3年度「3.11メモリアルネットワーク基金」の助成をいただき取り組ませていただきました)



VOL.1



VOL.2



VOL.3

日産スマイルサポート基金 ～次世代への体験活動～

東日本大震災により被災した地域の子ども・若者たちが安心して遊び、学び、暮らせる状態になるよう、子ども・若者たちを応援する活動を支えることを目的とした基金「日産スマイルサポート基金」を通じて、ひまわり栽培体験、ドローンの操作体験、タブレットを用いての写真・動画撮影体験や動画作成体験を実施しました。



4月 第1回ドローン教室



5月 ひまわりの種まき



6月 ひまわりの苗植え



7月 第2回ドローン教室



8月 ひまわり結婚式撮影



9月 動画作成

子どもたちに体験だけでなく、「福島ひまわり防災検定」を実施し、東日本大震災や原発事故についてお伝えし、防災についてみんなで考えました！

「ひまわり防災検定」が事例集に掲載されました

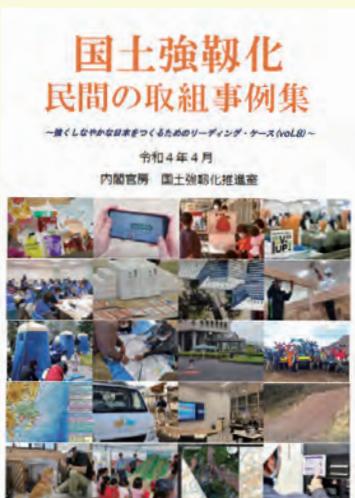


2022年3月11日より本格始動した「ひまわり防災検定」が、先導的な取り組みとして「国土強靭化 民間の取組事例集」に掲載されました。「国土強靭化」とは、地震や津波、台風などの自然災害に強い国づくり・地域づくりを目指す取り組みで、内閣官房がすすめています。

ひまわり防災検定は、「レジリエンス人材を養成する」という項目で、取り上げて頂きました。我々の取り組みが、日本の防災・減災意識の醸成に、少しでも貢献できれば幸いです。内容はQRコードよりご覧いただけます。

ひまわり防災検定について

「ひまわり防災検定」は、3.11の教訓をいかし、震災の記憶をつなごうと生まれた、防災減災に向けた日本初のライセンス。現在、3級の申し込みを受付中で、オンラインでの受験も可能です。ぜひお気軽にお問い合わせください。(5名様以上のグループでお申し込みください)





「ハグの献血キャンペーン」を実施

2022年4月、5月に福島県赤十字血液センター様との初コラボキャンペーン「ハグの献血キャンペーン」を実施しました。

きっかけは、当法人の副理事長を務め、2021年5月に病気で永眠した「ハグ」こと吉成洋拍さん。倒れた直後の手術やその後の治療で大量の輸血が必要だったため、ハグさんのために多くの友人がSNSを通じて献血を呼びかけました。すると、福島県内を中心に全国の仲間にも献血の行動の波紋が広がり、100名以上の方の献血へつながっていました。残念ながらハグさんは、笑顔で私たちの前に戻って来ることはませんでしたが、とても大切なことを気づかせてくれました。

- ・自分の大切な人が輸血が必要になるということはいつでもあり得ること
- ・献血は決して他人事ではないこと。
- ・献血に行く、献血を呼びかけるという行動で、自分や誰かの大切な人の命が救えること

このような行動を一過性に終わらせてはいけないと思い、キャンペーンの実施に至りました。第1弾、第2弾を合わせて、多くの方にご協力いただきました。また、キャンペーン期間中に献血された方へ、栽培用のひまわりのタネと「ハグカレー」をプレゼントするとともに、献血人数分のカレーを子ども食堂に寄附させていただきました。



第1弾 福島県赤十字血液センター、いわき出張所、郡山駅前献血ルーム:2022年4月1日～9日(献血者が少ない時期)

第2弾 BLTcafe (福島県福島市泉道下19-7)献血車にて:2022年5月12日(吉成さんの命日)

福島ひまわり里親プロジェクト

オンラインショップからのお知らせ

<https://himawaritane.official.ec/>



日本ひまわり里親プロジェクト



福島県内に お住まいの皆さまへ

全国から届いた種を無料で
お渡しさせていただきます。
ご希望の方は、別紙または福
島ひまわり里親プロジェクト
事務局までご連絡ください。



「ひまわり油入り
ひまわりカレー」を販売

2022年3月11日より販売中のひまわり油を使用した「ひまわりカレー」。使用されているひまわり油は、全国の里親さんから届いたひまわりの種を福島県にまいて、咲いたひまわりの種を搾油したもの。油の搾油作業や、レトルトカレーの製造を福祉作業所に依頼することで、障がい者雇用促進にもつなげています。

また、こちらの商品をご購入いただくと売上の一一部を活用し、福島県内の子ども食堂へレトルトカレーを寄付します。新型コロナウイルス感染症や物価高騰による影響などから、ますます困難を抱える家庭への影響が懸念されます。日本全国のプロジェクトにご参加いただいている方々の、想いの詰まったひまわり油を使用した「ひまわりカレー」で子ども食堂の応援をこれからも続けていきます。



ひまわり油入り！ひまわりカレー
中辛 5個セット 3,000円（税込）

△全国の里親さんへ/ 種の販売を開始しました

ご家庭や地域、学校などの活動にお役立ていただき、ひまわりを育て採れた種を福島に送っていただけると嬉しいです。種の購入をご希望の方は、別紙またはオンラインショップから、よろしくお願ひします。



“きずな”の種セット
種10g (70~100粒程度)
1,500円（税込）



“きずな”の種と絵本セット
種1g (10粒程度)
1,500円（税込）



SDGsボックス
種10粒×100袋
15,000円（税込）

お世話になったあの人へ 手紙を書こう！

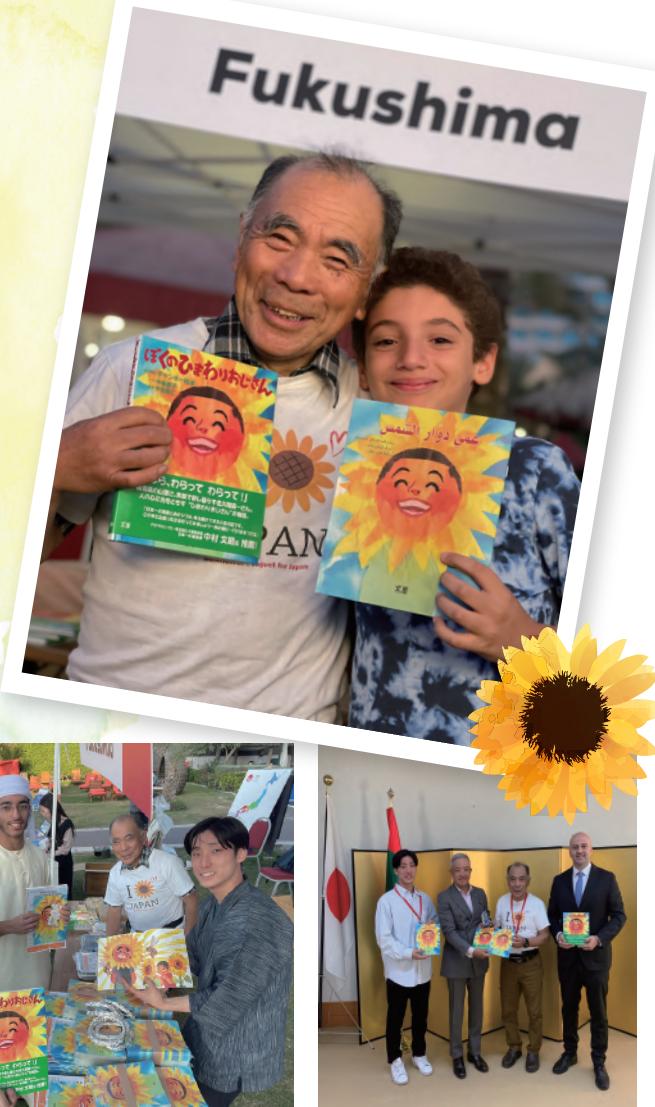


オリジナル切手
1シート (84円×10枚)
2,000円（税込）

ドバイで広がるひまわりの輪

2022年12月11日(日)、12日(月)、中東のドバイで絵本「ぼくのひまわりおじさん」や福島ひまわり里親プロジェクトをお伝えする機会をいたしました。この渡航は、シリア人ジャーナリストのナジーブ・エルカシュさんの「アラビア語版の絵本『ぼくのひまわりおじさん』をアラブ諸国の難民の方々に届けたい」という思いから始まり、絵本の主人公である“ヒマワリおじさん”こと佐久間辰一さん、プロジェクト立ち上げから関わってきた筑波大学3年 松井 新さん、ナジーブさんの3人がドバイを訪れました。

プロジェクトについては、3月11に開催される「第10回ひまわり甲子園全国大会 2023」にて報告します。 ▶詳細 5~6ページ



<11日>日本とUAEの国交樹立50周年を記念して「ドバイで日本の縁日を楽しもう!」をコンセプトとして開催された「日本祭り」にブース出展

<12日>現地の日本人学校と在ドバイ日本総領事館を訪問

災害支援報告

昨年も「福島ひまわり里親プロジェクト」を通じて支援金の募集を行いました。たくさんの方々に思いの詰まったご支援を頂き、感謝いたします。おかげさまをもちまして、皆様からお預かりした支援金を活用させていただき、以下の支援を行うことができました。

【2022年3月16日福島県沖地震災害支援金】

◆受付期間:3月17日から3月31日

◆支援内容:

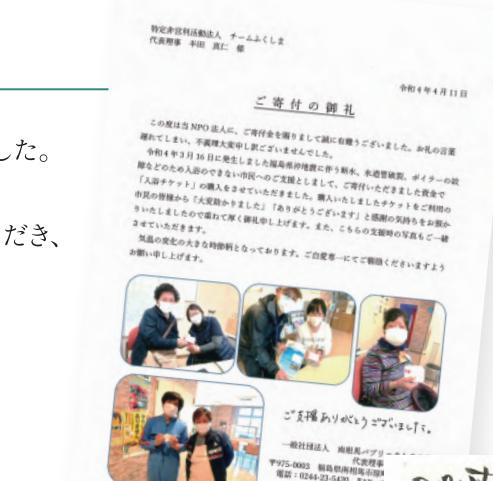
断水、水道管破裂、ボイラー故障などで入浴ができなかった南相馬市鹿島区で被災者支援として入浴支援事業を行う一般社団法人南相馬パブリックトラスト様へ支援金を寄贈

【令和4年台風15号災害支援金】

◆受付期間:9月27日~10月2日

◆支援内容:

・静岡県内の里親さんへお見舞いのお便り発送
・断水の被害が大きかった静岡市清水地区の里親さんへ飲料水配達
・浸水被害があった里親さんへ支援金寄贈



2022年 ひまわりの種 福島県内寄贈先

全国の里親さんから届いたひまわりの種が、今年も福島県内各地で花を咲かせました！



浜通り

- ◆浪江町 浪江町役場
- ◆広野町 有限会社アド・プロ広芸社
- ◆いわき市 いわき市立藤間中学校

中通り

- ◆福島市 きしなみ酒店
- 恵和興業株式会社
- 損害保険ジャパン株式会社
- 月電工業株式会社
- 放課後等デイサービスむすび
- 福島県青少年会館
- 福島市立平石小学校
- 福島民報社
- 福島学院大学
- 株式会社フレッシュ BLTカフェ
- まるせい果樹園
- fan cafe NET
- 採用と教育研究所

相馬由寛中小企業診断士事務所

半澤法律事務所

福島交通株式会社

郡山市

- あさひがおか保育園
- あさひがおか乳児分園
- 株式会社アディカ

株式会社柏屋

株式会社東北村田製作所

郡山市立郡山第三中学校

ZENOAQ 日本全薬工業株式会社

夢成株式会社

田村市

- 株式会社デンソー福島
- 牧野ひまわり会

白河市

白河市立五箇中学校

須賀川市

藤島農機株式会社

伊達市

IMOJAPAN

川俣町

株式会社 日ピス福島製造所

◆天栄村

天栄村役場 湯本支所

◆中島村

富士工業株式会社 白河事業所

会津

◆会津若松市

会津若松市立第三中学校

◆会津美里町

RYOENG株式会社

◆金山町 金山町役場

◆南会津町

株式会社みなみあいづ

◆柳津町 柳津観光協会

※掲載は一部です



全線開通した只見線とともに(金山町)

福祉作業所「菊の里」様へひまわり油を寄贈



福島県内で咲いたひまわりから採れた種を、二本松市の「NPO法人 和」さんの作業所にて、搾油頂いています。

2022年9月15日に、バイオディーゼル燃料の精製をされている、福島県二本松市の社会福祉法人「あおぞら福祉会 菊の里」さんの作業所に、搾油した約30ℓのひまわり油をチームふくしまでインターンシップ中の学生から職員の方へお渡しさせていただきました。ここで精製されたバイオディーゼル燃料は、福島市内を走る循環バスの燃料として活用されます。

近年は豪雨や猛暑など、気候変動によるリスクが認識されてきており、脱炭素など地球環境を意識した取り組みが、世界的に必要とされています。バイオディーゼル燃料は地表の二酸化炭素を増やすことなく、燃料として使用することができるため、CO₂排出量削減に貢献することができます。For you For Japan, そしてFor Worldな取り組みを、これからも続けてまいります。

やさず、燃料として使用することができるため、CO₂排出量削減に貢献することができます。For you For Japan, そしてFor Worldな取り組みを、これからも続けてまいります。

福島ひまわり里親プロジェクトの記録

(2022年4月~2022年12月)

全国各地でプロジェクトの活動を取り上げていただきました。一部ご紹介します。



2022.6.30 静岡新聞



2022.6.6 日本海新聞



2022.8.4 信濃毎日新聞



2022.7.31 洛タイ新報



2022.8.11 東京新聞

中津三光 見て！一面のヒマワリ

【中津】中津市三光佐知で、住民有志が育てたヒマワリが見頃を迎えている。約5千本の黄色い大輪が一面に広がっている。盆明けまで楽しめそうだ。

東日本大震災の被災地の復興を支援する「福島ひまわり里親プロジェクト」の一環、地域おこしアートグループの竹馬会（豊武富夫会長）が2011年から続いている。

6月中旬、地域の子どもや高齢者ら約60人が住民が所有する

畠（30ha）に種をまいた。今年は梅雨が短く日照状況などが良かったため、大きいまものは180㌢ほどに成長。花の付きも良いといふ。

9月中旬に種を収穫し、福島県に送る予定。農武会長（66）は「ヒマワリは復興のシンボルでもあり、元気がもらえる。写真映えがする夏らしい風景を多くの人に見えてほしい」と話している。（三井祥聖）



2022.8.7 大分合同新聞

墨田 交流の種 花開く 福島



2022.8.11 東京新聞



収穫したひまわりの種について

福島ひまわり里親プロジェクトへのご参加・ご協力に心より感謝申し上げます

全国の里親のみなさまへ

福島ひまわり里親プロジェクトより購入したひまわりの種を蒔き、咲いたひまわりからとれた種をお送りください。翌年、福島県内の学校教育機関や観光地、地域などに寄贈し、『復興のシンボル』としてあなたのひまわりが福島で咲き誇ります。

福島県のみなさまへ

全国の里親さんから届いたひまわりの種を蒔いて、咲いたひまわりからとれた種を以下へお送りください。福島県内で採れた種はひまわり油を搾り、ひまわりカレーの原材料の一部に使用したり、福島交通(株)の路線バスのバイオディーゼル燃料として活用しています。

収穫した種の送り先

※送り先は同じです

十分に乾燥し終わった種だけを、封筒等に入れて切手を貼って送ってください。

※福島ひまわり里親プロジェクトのひまわりから採れた種のみ

種は、1年中
受け付けています!

全国で採れた種

×

福島県内で採れた種

〒969-1403 福島県二本松市渋川字大森越122

特定非営利活動法人 和

福島ひまわり里親プロジェクト事務局

TEL: 0243-23-4551

種を送る際のポイント

★よく乾燥させる

手で種の部分をちょっと触ってみると、種がぼろぼろと落ちてくる感じがベスト。十分に乾燥できていないと取りづらいです。鳥が来て、種を食べてしまうようなときには、花の部分を切り取って、風通しの良い場所で1~2週間乾燥させるのがいいでしょう。

★花から種だけをとる

花の状態で送ると、カビが生え、種が使えなくなってしまいます。花から種を取るときは、魚を焼くときに使う網などを用意し、上から種の部分をこするようにすると種が取れます。



編集後記

コロナ禍が続いている中でも今年度は、「ハグの献血」キャンペーンや3年ぶりのひまわり結婚式の開催、子どもたちの体験教室事業など少しずつコロナ禍前のように事業を行なわせていただくことができました。また、「コミュニティフリッジひまわり」という新たな事業もスタートしました。これら全てが実施できるのも「福島ひまわり里親プロジェクト」を応援してくださっている方々、関わってくださっている方々のおかげです。心から御礼申し上げます。来年度も新たな事業をスタートさせる予定です!福島が「同情の街から尊敬の街に」「お互いさまの街 ふくしま」へと呼ばれるように皆さんとともに突き進んでいきたいと思いますので、今後とも応援のほど、どうぞよろしくお願ひいたします。(清野)

NPO法人チームふくしま

〒960-8055 福島県福島市野田町6-7-8ツインコートB103

TEL: 024-563-7472 / FAX: 024-529-5794

MAIL: info@sunflower-fukushima.com

HP: https://www.sunflower-fukushima.com/

<https://www.facebook.com/fukuhimawari311>

<https://www.instagram.com/fukuhimawari311/>

<https://twitter.com/fukuhimawari311>

福島ひまわり里親プロジェクトの活動は

#福島ひまわり里親プロジェクト のタグをつけて投稿してください☆

▶WEBサイト、各取り組みのページやSNSの

リンク先はこちらより一覧でご覧いただけます

<https://lit.link/teamfukushima>



メディアお問合せ、種の寄贈、各種イベント、賛助会員、グッズ販売などお気軽にお問い合わせください。そのほか、各地での活動報告や、ひまわり新聞をご覧になった感想などもお待ちしております!